

守ってやれなくてごめんね。

東日本大震災の津波から双子といっしょに逃げたママが、津波に追いつかれてしまいました。死を覚悟した瞬間に発した一言・・・それは「ごめんねっ」でした。

この親子は奇跡的に九死に一生を得ましたが、わが子を守れず、「ごめんねっ」としか言えない、死を覚悟した状況を想像してみてください。親としてこれほど辛い場面はありません。もう一つ、わが子を思う「ごめんね」エピソードがあります。

震災から三日間、わが子三人の安否が分からず一切連絡が取れない日々を過ごした一般社団法人 防災プロジェクト 代表理事の中井氏は、当時を次のように振り返ります。

【▼震災後、いっしょに居た妻と、避難所に身を寄せることは出来ましたが、安否がわからない子供たちのことが心配で一睡もできず、愛する子供たちが津波に流され溺死するシーンが、夜中何度も頭を過りました。

その次の瞬間、汗が吹き出して・・・心臓の鼓動が倍速になり・・・胸がギュツと締め付けられ・・・苦しくなる。

罪悪感から、心の中で『守ってやれなくてゴメン!』と何度も謝りました。▲

中井氏はこの地獄の状態が3日間続きましたが、幸いにも3日後に子供たち3人と無事再会できたそうです。

しかし感動の再会とはいかず、三男から「お父さん、お母さんは死んだと思ってた」と衝撃的な一言が飛びだしたとか・・・。

それを聞いて、中井氏は「心から反省した」と言います。

「そうか・・・わが家は『お互いに生きて再会する』という親子間の約束を怠っていた」と。

◎まとめ・・・防災の第一歩は信頼からはじまる。だから親子間、職場内で話し合ってください。

親子間の約束は「生きて再会しよう」、職場内の約束は「チーム力で乗り切ろう」。これが基本です。

◆今日の言葉・・・『親子で、職場で、信頼しあう防災』を今日からはじめよう！

今日の気づき

防災朝礼
ストーリー【1】

◎防災のセカンドオピニオンになります！ 一般社団法人 防災プロジェクト
◎個人・法人どちらも対応！ ご相談はお気軽に！ <http://防災プロジェクト.com/>

※本文を転載・記載する場合、「出典先（一社） 防災プロジェクト」と明記をお願いします。